

## 2015 年度春学期 日本理解に関する科目・授業概要

	授業科目名 Subject	担当教員 Lecturer	曜日・曜日 曜・曜 Period, Classroom	目標 Aim	内容とテキスト Course outline, Textbook
日 本 理 解 *	日本理解A (教育)	戸田 孝子 (とだ たかこ)	火 5 W301	<p>一般学生向け目標： 多文化共存の社会で、さまざまな文化をもつ人々と共に生きていくための人間理解の基礎となるセンスや視野を実践的に身につける。</p> <p>教育や教授法を学ぶ学生向け目標： 多文化環境での「学び」（さまざまな新しい知見を与えるという意味）「学習」（習得することを目標としていることについて身に着けていくという意味）について、教える立場、学ぶ立場を換えて体験的に理解を深め、将来の新しい教授法を開発する発想を得る。</p>	<p>【内容】多文化共存の教室環境での新しい学びをテーマに、「実践的な授業」を行います。日本人学生もボランティアでの参加を呼びかけます。受講生は、母国の小学校、中学校、あるいは、高等学校の教室の記憶を呼び起こして下さい。日本語、または、英語で、あるいは、母国語と、日本語または英語のバイリンガルで、あるいは、通訳の友人と一緒に母語で、教室の皆が、専門に関係なく楽しく参加できるような「模擬授業」（どうなるか試してみる授業という意味で、完璧な教授法の開発や指導力を競い合うものではありません）を考案し、実施していきます。単位は、この模擬授業の立案と実践の記録、そして、他の学生の模擬授業への生徒役としての参加の記録、それらを通しての考察を提出することにより得ることができます。模擬授業には、例えば、あなたの母国語の初歩の授業、あなたの国の計算（国によって方法が異なります）の授業、算数や数学・論理のクイズを解く発想法の授業、日本の日常生活で手に入れることのできる身近なリサイクル品を用いた簡単な科学実験や芸術製作の授業、東京学芸大学のキャンパスの植物を観察する授業、国分寺の遺跡を探索する授業、母国のこどもの遊びを戸外で紹介する授業など、幅広く考えられるでしょう。民族舞踊、合唱、演劇の授業を行いたい場合は、特別教室を用意します。自由に、あなたが、皆に体験してもらいたいテーマで、模擬授業を考えてみて下さい。初回に、受講を希望する学生が多い場合は、模擬授業をグループで実施する場合があります。また、単位には、参加の必要はありませんが、6月に、希望者は、日本の小学校の授業風景を見学に行くことができます。</p> <p>【テキスト】共通に購入しなければならないテキストはありません。</p> <p>【評価方法】3つのシートの総合評価： ①模擬授業計画シート（自分で実施する授業の記録） ②模擬授業参加シート（他の学生の実施する模擬授業へ生徒役として参加したことの記録） ③学期末ワークシート（①②の体験で得られた異文化理解や多文化共存に関する考察）</p>

日本理解 C (人文)	佐伯英子 (さえき えいこ)	水 2 N301	「いのち」のはじまりと終わりはどこにあり、自分の「いのち」に関して私たちはどれだけの権利をもっているのでしょうか。この授業では、科学技術の発達やグローバリゼーションが進む現在、誰もが避けては通れない問題となっている生命倫理についての理解を深めることを目標とします。	【内容】人口妊娠中絶、生殖補助技術、出世前診断、遺伝子操作、脳死と臓器移植、安楽死・尊厳死といったテーマを通して「いのち」の定義の多様性、歴史、文化、社会的背景を考え、意見を交換しながら理解を深めます。現状を統計や政策、メディア資料（新聞、雑誌、その他）等から理解し、「当事者」の声や様々な団体の主張や活動から生命倫理の複雑性を明らかにします。また、国際比較や、日本でなされている議論を国際的な議論の中に位置付けて考えることから、生命倫理の問題を多面的に理解することを目指します。 【テキスト】特に定めません。 【評価方法】平常点 30%、課題提出 15%、発表 25%、レポート 30%
日本理解 E (人文)	高崎 恵 (たかさき めぐみ)	水 1 N302	(1) 日本の宗教の歴史を理解する (2) 日本で見られる宗教の特徴を理解する (3) 現代日本の宗教事情について知見を広め、自分なりの意見を持つ。	【内容】日本人の宗教意識についての多くの調査が、日本人の大多数が自分を無宗教だと考えていることを報告しています。しかし宗教という要因を度外視して、現代日本人の日々の暮らしを理解することはできません。日本国内のコンビニエンスストア数は約 5 万店ですが、仏教寺院数は 77000 以上です。キリスト教信者は一見少なく、総人口の 1%程度ですが、キリスト教結婚式は人気があり、近現代日本の教育、福祉、医療の進展にキリスト教は大きな影響を及ぼしています。皇室報道や靖国問題など、神道と結びつく事柄は日本のニュースで繰り返し報道され、ゲゲの鬼太郎から妖怪ウォッチまで、日本の民俗世界に登場する非日常的な存在は、大衆文化に活用されています。日本は日本人自身が考えているよりもずっと日本は宗教と緊密に結びついている社会なのです。 この授業では、まず日本における宗教の歴史と、日本で見られる宗教の特徴を紹介し、日本の社会における宗教のあり方について皆さんとともに学びます。授業の理解度は小テストで行い、受講生の皆さんには、関心のあるテーマについて短い発表をしてレポートにまとめていただきます。 【テキスト】特に定めません。【評価方法】小テスト 50%、発表とレポート 50%。
日本理解 G (自然)	目代邦康 (もくだい くにやす)	金 1 N101	湿潤変動帯にあり、四季のある日本列島の自然環境について学び、日本列島における人と自然との関係性を考えます。	【内容】日本列島の自然環境について、地殻変動、斜面変動、気候変動、気象環境などを踏まえて説明する。これらの自然環境の変動は、多くの場合、自然災害となる。それぞれの地域で、この自然災害をどのように防ぎ、受容してきたかについても紹介する。日本列島各地の多様な自然環境の理解を深めるため、ビデオや写真などを用いて、授業をすすめていく 【テキスト】目代邦康（2011）「地形探検図鑑」誠文堂新光社。【成績評価】テスト（50%）、レポート（50%）

\* 「日本理解 B・D・F・H」は、秋学期に開講します。「日本理解」の授業内容は、「留学生センターホームページ」からも見られます。

多 文 化 共 修 科 目 **	多文化共修科目 A (異文化理解とコミュニケーション)	岡 智之 (おか ともゆき)	木 1 N313	多文化共修科目は、日本人学生と留学生をはじめとする様々な文化的背景を持つ学生が、授業という場でお互いに学び交流しながら、新しい気づきを生み出す場です。多文化共修科目 A「異文化理解とコミュニケーション」では、異文化に関する理解を深めるとともに、多様な文化を持つ学生の議論や協働学習を通して、多種多様な人々と対等にコミュニケーションを取ることができる能力を高めることを目的とします。	【内容】異文化コミュニケーションや多文化社会に関する知識を（ゲストのお話も交えながら）留学生など多様な学生との議論・交流を通して学ぶ。グループで多文化社会の問題解決を目指すプロジェクトを企画し、フィールドワークも行き、発表し、報告書としてまとめる。 1. オリエンテーション、2. 異文化理解について、3. 大学の国際化と留学生、4. 日本の外国人、民族問題、5. 日本の言語問題、6. 地域における多文化共生（ゲストトーク）、7. ろう文化と手話（ゲストトーク）、8~12 プロジェクト構想と発表、フィールドワーク、中間報告、13, 14. 最終発表。フィールドワーク（外国人学校訪問など） 【テキスト】特に定めません。 【評価方法】平常点 30%、課題提出 30%、発表 30%、最終報告書 10%。
	多文化共修科目 C (世界の言語と文化)	斎藤純男 (さいとう よしお)	月 1 N313	さまざまな文化的背景を持つ学生（留学生、日本人学生）が交流しながら世界の言語と文化について学び、互いの議論や協働学習を通して、言語と文化に関する知識を得るとともに多様な考え方に触れて視野を広げることを目標とします。	【内容】さまざまな文化的背景を持つ学生（留学生、日本人学生）が交流しながら世界の言語と文化について学び、互いの議論や協働学習を通して、言語と文化に関する知識を得るとともに多様な考え方に触れて視野を広げることを目標とします。 【テキスト】使用しない 【評価方法】出席 50%、授業への取り組み（発表を含む） 50%

\*\*「多文化共修科目 B・D」は、秋学期に開講します。シラバスは「大学ホームページ>学内ネットワーク>シラバス検索」でも見られます。